第３７回　圧力容器規格委員会　議事録

1　日時：

令和６年１月１５日（月）　１３：００～１４：３０

2　場所：

高圧ガス保安協会　第４会議室（Web 会議併用）

3　出席者（順不同、敬称略）：

委員長　：井上
副委員長：高橋
委　　員：坂倉、大江、寺田、後藤、池田、板谷、脇、宮川、山本、佐藤（雅）
陪　　席：小林
ＫＨＫ　：加藤、瀬谷、山本、富岡、梶山、三宅

4　議題：

（１）　委員長の互選及び副委員長の指名（３７資料１）
（２）　圧縮水素蓄圧器用複合圧力容器に関する基準の改正案について（３７資料２～３）
（３）　その他

5　配布資料：

３７資料１　圧力容器規格委員会　委員名簿（令和５年９月１日）
３７資料２　圧縮水素蓄圧器用複合圧力容器に関する基準 KHKS0225 の改正案について
３７資料３　KHKS0225 改正案

6　議事概要：

新任となった委員の紹介を行い、出席人数を確認して委員会の成立条件を満足することを確認した後、以下に示す議題の審議を行った。

議題（１），委員長の互選及び副委員長の指名

３７資料１に基づき、事務局より委員長の互選及び副委員長の指名を行った。委員長は互選により井上委員に決定した。副委員長は井上委員長の指名により高橋委員に決定した。

議題（２），圧縮水素蓄圧器用複合圧力容器に関する基準の改正案について

３７資料２及び３７資料３に基づき圧縮水素蓄圧器用複合圧力容器に関する基準の改正案について説明を行った。これについて、以下の質疑があった。

1)　疲労寿命解析に使用する設計係数α、並びに亀裂進展解析に使用する設計係数β、材料定数 C 及び材料定数 m について、改正案では算定結果の数値のみの説明であり、算定過程を含む決定プロセス等の妥当性が判断できないのではないか。
→対象とした解析データ、決定プロセスなど、算定根拠を提示することとする。また、必要に応じて規格の本体又は附属書に取り入れることとする。

2)　応力解析の手順には、崩壊解析の手順が記載されていないがよいのか。
→複合圧力容器の応力解析の前提として、崩壊することを考慮していないため、現行のままとする。

3)　附属書 C の改正内容については、現在検討中のようだが、今後どのように進めていくのか。
→事務局にて検討作業を進め、上記 1)と合わせて提示することとする。

上記の審議の結果、圧縮水素蓄圧器用複合圧力容器に関する基準の改正案の方針については委員の了解が得られた。

今後の対応は以下の通り。
・事務局は今回の委員会でのコメント等を踏まえて、規格の改正案をとりまとめ、次回以降の委員会で最終の審議を行う。

議題(3)　その他

次回委員会の日程：令和６年３月中旬での開催を予定している。
詳細な日程については、別途事務局から連絡することとなった。

以上